

企業と社会フォーラム編 学会誌 企業と社会シリーズ 原稿提出に関して

記

1. (1) 掲載された原稿の著作権は、企業と社会フォーラムに帰属します。
- (2) 本書に掲載された原稿を執筆者が他の出版物に転用する場合には、予め文書によって企業と社会フォーラムの了承を得なければなりません。
- (3) 既発表原稿、およびご投稿いただいた学会誌の発行までに他で発表されるものと同様の原稿を提出することは認められません。ただし、学会誌に掲載される原稿が他のものと同様か否かの判断は執筆者の良識にお任せいたします。

2. (1) スケジュール：

投稿時期	随時受付。
査読	その年の1月15日までに投稿された論文を対象に、編集委員会による査読を実施。査読結果は3月末までに投稿者に通知される。
最終原稿の提出	査読コメントに基づき論文の修正を行い、5月末までに完成原稿を提出する。
学会誌発行	9月発行。

- (2) 原稿提出先：info@j-fbs.jp 宛のメールにワードファイルを添付して提出下さい。
PDFファイルでの提出は不可

- (3) 執筆要領：

学術論文 (学術論文の形式・内容を備えるもの)	20,000字以内	原則として、実証研究と理論研究双方の応募が可能。 ①実証研究の場合：少なくとも以下の要素をこの順番で含んでいることが望ましい。(適宜項目名などはアレンジ可能) 問題意識(リサーチクエッション)と研究の意義、先行研究、仮説、仮説検証の方法(=メソドロジー)、仮説の検証結果、考察、結論 ②理論研究の場合：特定の問題意識(リサーチクエッション)の下で、網羅的に先行研究を分類・分析し、新たな仮説・理論を導いている
研究ノート (学術論文としての形式は備えていないが、学術研究に資する価値があるもの)	15,000字以内	研究メソドロジーそのものに関する比較考察、先行研究のまとめ(学術論文ほどには網羅的でない場合)、先行研究の考察に基づく新たな研究領域の提案など、上記学術論文に求められる要素がすべて満たされていないが、研究上の意義があるもの
事例研究・解説 (企業、NPO/NGO等組織活動の事例と考察、または各種政策の解説)	10,000字以内	事例紹介の場合は、単に事例を事象レベルで記述するだけでは不十分であり、その事例が企業と社会の関わりの中で何を体現し、どのような示唆を持つのか、またはどのような問題を投げかけているのかなど、十分な考察が必要。

いずれも文字数には下記を含む：

- ・アブストラクト(300字程度)
- ・キーワード(10程度)
- ・本文

- ・写真・図表（1/2ページ大＝760字、1/4ページ大＝400字で換算のこと。詳細は執筆要領VIを参照）
- ・参考文献および注釈

※査読のため、論文には著者名や所属機関名、謝辞などを含めず、下記について記載されたカバーレターを併せて提出下さい。

- ・論題
- ・著者名、大会報告時点の所属機関名、連絡先（職位、住所、メールアドレス、電話番号等）
- ・アブストラクト
- ・キーワード

その他詳細は次頁以降参照。

（4）原稿執筆上の注意とお願い

- ①原稿文字数は上限を厳守して下さい。上限を超えた場合は、原稿を規定文字数以下に修正していただくか、あるいは原稿の受領をお断りします。
- ②本学会誌は横組みですので、執筆者は横組みの完全原稿をご提出願います。
- ③執筆者校正は1回のみです。校正時点での文字・文章の加筆および削除等の修正はご遠慮願います。
- ④原稿提出後、中・長期にわたり（国内・海外を問わず）出張等で連絡がとれないことが事前に判明している場合は、予め企業と社会フォーラム（JFBS）事務局にお知らせのうえ、原稿に連絡先を明記していただき、その間の校正をどなたにお任せするかも決めておいて下さい。ご連絡なき場合は、校正は出版社（千倉書房）に一任させていただきます。
- ⑤原稿提出後住所が変更になった場合は速やかに JFBS 事務局にお知らせ下さい。

問合せ／連絡先：

学会「企業と社会フォーラム」(JFBS) 事務局
〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1
慶應義塾大学 協生館 2階 慶應ビジネススクール 岡田正大研究室内
TEL: 045-564-2033 / FAX: 045-562-3502
E-mail: info@j-fbs.jp
URL: <https://j-fbs.jp>

I. 書式設定について

書式はフォントを MS 明朝（フォントサイズは 10.5）とし、1 ページにつき A4 版で 40 字×40 行に設定して下さい。学術論文は 20,000 字以内、事例紹介・解説は 10,000 字以内を厳守のこと。なお字数計算にあたっては、半角も全角も区別せず、1 字は 1 字として同様に字数計算をして下さい。

II. 項目の区分について

大項目 1. 2. 3. 4. ...

中項目 1-1. 1-2. ...2-1. 2-2. ...

小項目 (1). (2). (3). ...

- ・項目番号は自動ナンバリング機能を使わず、手入力して下さい（出版社による編集作業中に番号が変わってしまうことを防ぐため）。
- ・節・項に相当する見出しは、それだけで該当の行を独立・完結し、見出しと同じ行に本文を続けることはできません。

III. 文章の表記について

- ・国名・地名・人名等：国名・地名・人名等は、原則としてカタカナ書き。
- ・数字：数字は算用数字を使用する。二桁以上の数字は半角数字。
- ・英字：英字は半角。
- ・年号：年号は、原則として西暦を使用。
- ・数式等が入る場合には、文字を指定する。例えば、大文字・小文字・上ツキ・下ツキ・ギリシャ文字等。
- ・句読点：「,」（カンマ）、「。」（マル）を使用。

IV. 注記について

注記は後注とする（本文の後、参考文献の前）。後注には通し番号をつける。(1)、(2)、

V. 参考文献について

- ・著者－出版年発行方式（author-date 方式）。
- ・論文末に、〈参考文献〉（ゴチック、左寄せ）の項目をたてる。
- ・外国語文献はアルファベット順で、日本語文献は五十音順で、区別して配列する。
- ・邦文文献の表記例
単行本：著者名（発行年）『書名』（シリーズ名）出版社。
分担執筆論文：執筆者名（発表年）「論文名」編者名『書名（論文集名）』、掲載ページ、出版社。
雑誌論文：執筆者名（発表年）「論文名」『雑誌名』巻号、掲載ページ。
- ・欧文文献の表記例
単行本（邦訳なし）：著者名（発行年）書名【イタリック】、版次、出版地：出版社。
Post, J. E., Preston, L. E., and Sachs, S. (2002) *Redefining the Corporation: Stakeholder Management and Organizational Wealth*, Stanford, CA: Stanford University Press.
単行本（邦訳あり）：著者名（発行年）書名【イタリック】版次、出版地：出版社。（訳者名『訳書名』出版社、発行年）
Peters, T.J and R.H. Waterman, Jr.(1982) *In Search of Excellence*, NY: Harper & Row.
（大前研一訳『エクセレント・カンパニー 超優良企業の条件(上下)』講談社、1986年）
編著：編著者名(Ed.)（発行年）書名【イタリック】（版次）、出版地：出版社。
Crimp, D. (Ed.) (1988) *AIDS: Cultural Analysis, Cultural Activism*, Cambridge, MA: MIT

Press.

編著に収録された論文：筆者名（発行年） 論文名、In 編者名、書名【イタリック】、掲載ページ、出版地：出版社。

Caby, J. and Chousa, J.P. (2006) 'Voluntary Disclosure of Non-Financial Information and CSR', in Allouche, J. (Ed.), *Corporate Social Responsibility*, pp.205-218, NY: Palgrave.

雑誌に掲載された論文：筆者名（発行年） 論文名、雑誌名【イタリック】、巻号、掲載ページ。

Meyer, J. W. and Rowan, B. (1977) 'Institutionalized Organisations: Formal Structure as Myth and Ceremony', *American Journal of Sociology*, Vol.83, No.2, pp.340-363.

インターネット上のレポート等：機関名（発行年） Available at URL、Accessed 年月日。

World Economic Forum (2005). Available at <http://www.scribd.com/doc/6293582/>

World-Economic-Forum-Annual-Report-20042005 Accessed January 1st 2012.

E メール、会話、手紙等の個人的コミュニケーションについては参考文献リストには含めず、本文中に記載すること：

(interview with the John Bird, The Big Issue Company Limited, 12 November 2008).

同一著者の文献が複数ある場合は、発表年順に置く、2行目以降著者名を繰り返さずに「-」を用いる、

同一著者の同一発表年の文献には出版年の後に a、b、c 等の添字をつける。

VI. 写真・図表について

- ・写真・図表には、表題、注、出所、原典等を記入する。
- ・表題は、写真・図表本体の上に表記する。
- ・写真、図、表は区別し、それぞれに通し番号を付ける。
- ・写真・図表は本文での挿入個所を明示して、原稿の終わりに入れる。図表は下記の要領で原稿字数に換算すること。

刷り上がり 2 分の 1 ページ大の図表：19 行×40 字=760 字

刷り上がり 4 分の 1 ページ大の図表：10 行×40 字=400 字

(いずれもタイトル 1 行と注記 1 行を含む)

VII. 研究倫理への配慮

研究上の倫理には特段の配慮を行ってください。

1. 本文中での引用について

・本文中で引用する場合 例) 先行研究 (佐藤, 2004) では…

・人名を文章の一部として引用する場合 例) 佐藤 (2004) が指摘するように…

引用元の正確な表記がなされない場合、著作権を侵害し剽窃とみなされる可能性があります。

2. ネット上のデータ引用について

企業・公共団体及びその他の機関のホームページ等からデータをダウンロードして引用する場合、事前の承認が必要な場合もあるので、原稿執筆者は自己の責任において必ず事前承認を受け、掲載に際してすべての責任は執筆者が負うものとします。企業と社会フォーラム・千倉書房では一切の責任は負いかねます。

3. 写真の掲載について

写真は著作権・パブリシティ権(被写体許諾権)・所有権等が異なることがあるため、原稿に掲載するに際しては必ずすべての権利者から掲載許諾を得て使用することとし、万が一原稿執筆者と第三者の間で争いが生じた場合は問題が解決するまで原稿掲載は見送られ、すべての責任を執筆者が負うこととします。企業と社会フォーラム・千倉書房では責任は一切負いかねます。

4. その他

上記に加えて、守るべき事項および研究不正の予防にも注意を払ってください。

守るべき事項： <ul style="list-style-type: none">・プライバシー、人権の保護・インフォームド・コンセント・個人情報の適切な取り扱い・安全に関連する法令の遵守	研究不正： <ul style="list-style-type: none">・捏造・改ざん・オーサーシップの偽り・二重投稿、二重出版・研究費の不正使用
--	---

(上表は日本学術振興会による研究倫理ポイント確認集『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得』(2016)に基づき作成)